

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
54

2017 長月・神無月

特集

絵本で広げよう金剛禅プロジェクト座談会
絵本の取り組みが気づきを促し、
気づいた人から変わっていく

Be the Bridge

70th
Anniversary

1947-2017



特集

絵本で広げよう金剛禅プロジェクト座談会

絵本の取り組みが気づきを促し、 気づいた人から変わっていく

2015年12月に「絵本で広げよう金剛禅プロジェクト（略称：絵本プロジェクト）」がスタートしてから約1年半。現在、絵本プロジェクトは「指導者の資質向上」を目的として、賛同者を徐々に増やしています。今回の座談会では、絵本プロジェクトに自ら手を挙げ、先行して活動している4氏に、プロジェクト顧問の三浦伸也氏とこれまでの活動を振り返り、自らの気づきを語っていただきました。



三重津東道院において座談会

子供も大人も 変わっていく

三浦 ここにいる4人の皆さんは、全国に先駆けてプロジェクト開始当初から「モデル道院」として、より積極的に「絵本の読み聞かせ」に関わっていただいています。道院のこと、子供のこと、そして自身のことなど、どんな気づきがあったのか楽しみます。早速ですがいかがですか？

山本 私の道院には、絵本を読むときに、いつも後ろの方で指をくわえて見ている少年部の拳士がいました。彼の背景も知っていたので、きつとある種の不安を抱えていたのだと思います。どんな絵本を読んでも反応がないので、どうしたらいいんだろうと思い、いろいろ考え

※1『ぎゅっ』作・絵 ジェズ・オールバラ／徳間書店

て『ぎゅっ』（※1）という絵本を読みました。そうしたらいつの間にか前に来て、絵本に手を伸ばしてきたんです。不思議なことにそれ以降、その子は指をくわえなくなつて、絵本を読むときには前に座つて聞いてくれるようになりました。『ぎゅっ』をきっかけに、彼の心に少し手が届いたようで嬉しかったです。

三浦 その後、その子に何か変化はありましたか？

山本 あるとき自分から「僕が絵本を読んでもいい」と言ってくれたんです。そしてその子が皆の前で絵本を読んだんです。このことが自信につながつたようで、何をやるにも誰かと一緒にできない行動でなくなつたのが自分一人でもできるようになり、練習でもシャキツとしてきた気がし

ますね。

三浦 ふだんは皆さんが道場で絵本を読んでいると思うんですが、皆さん以外の拳士が絵本を読むことはありますか？

松田 うちが中高生がチャレンジしてくれています。ある子はちょっとやんちゃで、大人からすると決して上手に読めているわけではないのに、私が読んだときよりも、子供たちの目がキラキラしているんで



プロジェクト顧問 三浦伸也氏

2017年7月16日
三重津東道院にて

担当／富田雅志



浜名新居道院 山本直也

す。私と何が違うんだろうと考えたら、その子が絵本を読んだときは、私たちが日頃目にしている彼とは違う素の部分というか、彼の優しい面が出ていたんですね。一方で私は、「上手に読まなくちゃ」という意図的なものが入っていた。そこでふと我に返ることができ、私たち大人はどこか求めるものが間違っていたんじゃないかなと思いました。

三浦 大人と子供の違いが出てきましたね。磯部さんは以前、プロジェクトに参加した理由として大人とは違う、論理に縛られない「子供の世界」に興味を持ったと聞きましたがいかがですか？

磯部 ある子は私が絵本を読み終わったときに、「僕な、大好きな先生が学校辞めはってすごく悲しかった」と、その絵本とは関係のないことを急に話し始めたんです。



福岡大野城道院 松田和子

す。普通なら、「何で今その話をするの？」となりますが、もし道院で絵本を読んでいたのなら、普段、こんな話をしてくれただろうかって思っただけです。そう言えば、日常のちよつとした会話も増えていますし、最近、皆に「絵本を読み始めてからどう？」って聞いたときは、「道場に行くのが楽しくなった」と言ってくれました。そんなに道場嫌だったのかとも思っただけですけど（笑）、「少林寺拳法も好きだけど、絵本も読んでくれるからもっと好きになった」と言ってくれたんです。

三浦 いいですね。秋田さんの道院では、他の幹部も絵本を読んでくれているみたいですけど、どうですか？

秋田 私が絵本を読み始めた当初、他の幹部たちは恐らく遠巻きに見ていたと思います。でもいつしか、順番に読むようになって、一人読み、二人読んでいる内に、自らやりたい



滋賀新旭道院 磯部亜希

絵本を読むときの 気持ちの向き

と、順番待ちができるようになっていったんです。ある幹部は急に絵本を読むように言われたにもかかわらず、突然鞆^{かばん}から用意してきた絵本を取り出して皆をびっくりさせました（笑）。どんな絵本を読むか、どんな読み方をするか、それぞれの個性が出ておもしろいですね。実は幹部同士、お互いのことをよく知っているつもりだったんですが、皆が絵本の読み聞かせに取り組むようになって、以前よりも幹部同士の会話が増え、お互いのことをより深く知ることになったと思います。ふだん、苦虫をつぶしたような顔をした幹部が、純愛物の絵本を読んだときにはすごく盛り上がりました（笑）。



三重津東道院 秋田ちひろ

だ」やりたくない」と泣いていて、道院長が機転を利かせ、急きよ「秋田さん、絵本読んで」と言われ、読んでいるうちに泣き止んで、最後まで一生懸命練習してくれたということがありました。

三浦 絵本を読んでいるときと、練習しているときとは何が違ったのでしょうか。特に自分自身の心境で。

山本 指導するときに、どれだけ丁寧に「ここを持ってこう引いてごらん」と教えても、「僕たちの少林寺拳法とはこういうもの。こちら側に来てね」という気持ちがどこかにあるような気がします。

秋田 そうですね。一方で、絵本を読むときは、「そっちに行ってもいい？ 君たちの世界に入ってもいい？」という感じで、こちらからすーっと子供たちに近づいていっているように思います。

三浦 この気持ちの方向の違いは、

大きな気づきですね。

松田 そう言われると、絵本を読むときは無意識に相手に寄り添っているのかもしれない。私の道院では、以前なら少年部の拳士の弟さんや妹さんたちは道場の外の駐車場で保護者と待っていたのですが、最近では、絵本の時間にその子たちが道場の中に入ってくるようになりました。絵本を読むことが、道場に入るハードルをぐっと下げられるんだと思います。さらに嬉しいことに、高学年の子が小さい子を前に座らせてくれたり、中学生が自分の膝の上に座らせてくれたりするようになりました。

絵本で研ぎ澄まされてくるもの

磯部 私たちは学校教育で型にはまることを覚えてきたんじゃないかと思うことがあります。「正解はこう」「こうしたら褒めてもらえる」というように。少林寺拳法でも、試験や大会はもちろん修練でも「間違ったらいけない」「よく見られないといけない」という思い込みを指導者が拳士たちに植え付けてしまっているのかもしれない。

松田 絵本プロジェクトに参加してから、そういうものが徐々に剥がれ

落ちていって、自分の本音に気づけるようになってきた気がします。そして、言っていることとやっていることのずれに敏感になってきました。山本 自分の言っていることとやっていることを一致させようと努力する。まさに「拳禅一如^{けんぜんいちにょ}」ですね。

松田 そうですね。自分自身の内面もそうなんですが、人と接していても「こうは言っているけど本音のところはどうなんだろう」という違和感にも気づけるようになりました。自分自身が磨かれ、感覚が研ぎ澄まされていっている感じです。

秋田 気づくということが大事なんですね。開祖がつくりたかった人というのは、開祖の教えを勉強する人ではなく、教えを実感し、自ら気づいて行動し、変わっていく人をつくりたかったんじゃないかと思います。

松田 新しく入門してくる人は開祖の姿を見ることができませんよね。「開祖はこう言っていた」で終わるのではなく、そこにいる指導者自身が光り輝いて、変わり続けることが大切なんですね。私も「この人から学びたい」「こんな人になりたい」と思われる指導者になろうと思います。

磯部 開祖の法話で「わしにもできたんだから君たちにもできる」とい

う言葉を思い出しますね。

山本 自分が変わっていくこと。それがいちばん説得力がありますね。三浦 僕はこのプロジェクトを通して、自己の内面にある、嘘のない本当の思いに気づいてくれる人が一人でも増えたらいいなって思っています。皆さんはこの活動を通じてそこに気づかれていますね。何年か後には、この輪が広がって、もっと多くの方とこのような場を持てることを楽しみにしています。

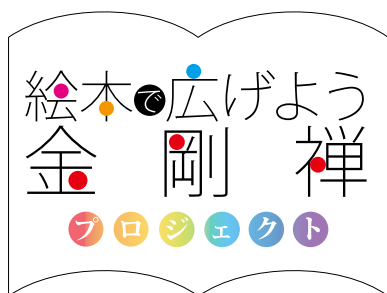


「絵本で広げよう金剛禅プロジェクト」 専用掲示板のお知らせ

全国で「絵本の読み聞かせ」に取り組んでいる道院長、拳士の意見交換の場としてWEB上の掲示板を設置しています。

掲示板への参加希望者は下記リンクまたは、右側のQRコードよりご申請ください。

<https://cybozulive.com/joinRequest?key=Bo805tqlfz>



■お問い合わせ

絵本で広げよう金剛禅プロジェクト事務局

電話 0877-33-1010

メール ehon@shorinjikempo.or.jp



開祖語録 ダイジェスト

1977年3月
大学合宿



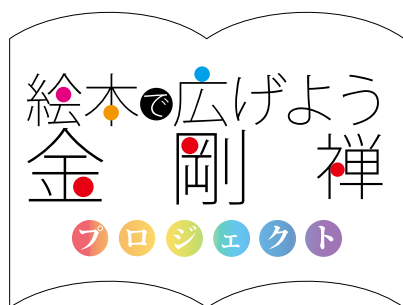
毎回同じことを繰り返し君らに呼びかけるのは「人間の幸せというのは単なる競争の世界にはない」、このことをどうしてもわからせないからなの。人間にしかできない素晴らしい能力を開発すべく、君らは若いんだ、時間は十分あるのであって、これ本気で理解しようとしていよ。そうしたらね、人の霊止^{ひと}たる無限の英知、無限のエネルギーたる情熱を自分自身に創造できるぞ。人間が持つすばらしさを人殺しでしかない戦争や自分以外の他者を出し抜くために使うのではなく、人間自身のために使う。そうすれば理想社会は必ず来る。頑^{かた}なでいいからそう信じろ。

政治にかかわる一部の連中の考え方が誤っているがゆえに、人を殺し、人を傷つけ苦しめることが平然と行われる。でもそれを変えられるのは、われわれ大多数であること、そこを確信しろよ。もちろんこんなこと言うたって、じゃどないしたいんだらうで、具体的な方策は困ったことに私だって「うーん？」である（笑）。でもわかっているのは原爆やら水爆を作り出したのが人間である以上、それをどうにか

する手立てを思いつけるのも人間であるということだ。私らの世代では答えも出し解決にほど遠かったとしても、君らの、そのまた後の世代が同様の問題意識を持ち続け私らのこの意志を受け継いでいってくれたなら、この愚かな人類にも若干の希望があると私は信じたい。たった一人の馬鹿^{ばか}な將軍だか政治家が独り善がりの勘違いをし、世界を破壊に追い込む。そんな小説だか映画だかを見た覚えがあるけど、たった一人の人間の考え方が全体をとんでもない方向へひっぱり込んでいったりは、歴史が教えてくれているように可能なんですね。

でも逆説的にいうなら、だからこそ人間は、それを止める力を持つてしかなるべきじゃないか。醜いけれども、同時にすばらしい力も持っている人間。その自己認識から始まって、自分だけでない、己以外の他を尊重できる意識、認識を育てる、それが徳育じゃないのか。この道に入り、私の門下に参加したことを、もっともっと自覚せよ。また、そういう意味でこの門を叩^{たた}いたことに、誇りと自信を持って頑張^{がんば}ってほしい。

人間の幸せは単なる競争の世界にはない



大和郡山南道院
道院長 河原 章二

楽しく行い、人を笑顔にし、 雰囲気良くなる

「絵本で広げよう金剛禅」プロジェクトが始まり、まず思ったのが、「おもしろそう」でした。すぐに道院の練習日に取り入れてみました。とりあえずみんなを集め、いきなり「先生が今日は絵本を読むでえ」と言うと、「えー、なんでー」という返事が返ってきました。少し強引に読み聞かせが始まりましたが、みんなの表情は一変し、普段の基本練習や実技練習では見せない笑顔や笑い声に包

まれ、読んでいるこちらの気持ちも温くなりました。「また読んでほしい人」と聞くと、全員手を挙げてくれ、それから毎週土曜日に約5分程絵本を読んでから基本練習に入るようになりました。道院長が楽しそうに行う姿を見て、今では、幹部も積極的に読んでくれています。私は絵本のストーリーが少林寺拳法の教えに直結してなくてもいいと思います。絵本を読むことで、練習に入る前の雰囲気作りや、コミュニケーションをとれるといった効果はたくさんあります。ぜひ、字数の少ない簡単な絵本から挑戦してみてください。

今回読んだ絵本

◎くれよんのくろくん

作・絵：なかやみわ



色んな色のくれよんの仲間たちが画用紙に落書きをしています、くろくんだけがいらないと仲間外れにされます。そこへシャープペンシルくんがやってきてアドバイスを。

原始仏教を学びましょう

「人、人、人、すべては人の質にある」。金剛禪の出発点は、この開祖の確信にありました。「人づくり」の手段には何がいちばんふさわしいのか。

開祖のさまざまな体験から生まれたのが、教えとしての「金剛禪」であり、その行としての「少林寺拳法」でした。

そして、開祖が「金剛禪」の教えの基盤とされたのが「釈尊の正しい教え」だったのです。釈尊の入滅後まもなく、「これぞ釈尊の正しい教えである」というものを確立しておこうとして第一結集^{けつじゅう}が開催されました。長老マハーカッサパ以下五百人の阿羅漢が集まり、釈尊の言葉を確認して、皆が承認した聖句を全員で唱和したのです。こうして最初期の経典がつくられていきました。

それから約百年後、二回目の結集のあと、仏教教団は分裂しはじめ、その後、二百年の間に二十程の教団に分裂していきます。この仏教教団が分裂する以前を「原始仏教」と呼びます。また、特に釈尊存命中を、最も純粹で根本的であるとして、「根本仏教」と呼んでいます。

このように、仏教はインドにおいても時代とともに変化していき、紀元前後に興った大乘仏教（大乘仏教側は、それ以前の仏教を小乗仏教と呼びました）が、中国を経て日本に伝わり、日本においてもととあつた日本の神との習合や、国家権力との迎合や統制により大きく変化し、日本の仏教は根本仏教や原始仏教とは異なるものとなっていきました。それゆえ開祖は、既成の仏教教団が釈尊の正しい教えから、かけ離れているとして、厳しく批判されたのです。

では、開祖が金剛禪の教えの基盤とされた「釈尊の正しい教え」とはどのようなものなのでしょう。

開祖は我々の信仰の中心である「ダーマ」を説くとき、

一．靈性としてのダーマ

二．法としてのダーマ

三．徳性としてのダーマ

として目には見えない力を、私たちにわかりやすく説明されました。これらの根底にあるのが、釈尊が成道後の最初の説法（初転法輪）で説かれた縁起の理法であり、中道、四

諦、八正道なのです。

縁起の理法は、深遠で、微妙で、難解で、目に見ることはできず、言葉にもならないものでした。それは一種のはたらきであって、頭で理解するというより、身体で感じるものでした。

その理法の存在を気づかせるものが、中道、四諦、八正道であり、これにより自身身がどのように生きるべきかを具体的に明らかにされているのです。

この縁起の理法、中道、四諦、八正道こそが「釈尊の正しい教え」の中核であり、釈尊は生きていた人間がいかに生きるかを説かれていることを忘れてはなりません。開祖もまた、人間の生き方を説かれたのです。

私たちは、仏教がインドでどのように変化したのか。そして中国を経て日本にどのように伝わったのか。さらに日本に仏教伝来後千年以上の間にどのように変わってきたのかを学ばなければなりません。そして、開祖がうち立てられた金剛禪の教えをより理解するために、釈尊の正しい教えについて深く掘り下げなければなりません。

わたしの 工夫

第

3

回

道院運営へのヒント・・・
もって道院の活性化、拳士の
育成につなげていこうという
コラムです。

今回の工夫を
教えてくれたのは・・・



大麻道院
小林登道院長

工夫① 〈投げかけ〉て〈引き出す〉

1979年に二代目道院長として引き継ぎ、38年になります。この間さまざまな試行錯誤を重ね、指導法、道院運営の方法も変化してきました。

いま、指導面で重んじていることは、言葉を〈投げかけ〉て、やる気を〈引き出す〉ということです。「こう



しなさい、ああしなさい」「これはだめ、あれはだめ」と断定した指導では、人は自ら考え

なくなります。そして、答えを示してくれる人に依存するようになり、自らの考え方も固まります。

私は「ここをこうするともっとよくなるよ」と、ヒントを投げかけるように心がけています。すると、拳士はどうしたらそうなるのかを自ら考えるようになります。うまくいかなくても工夫してみる。そして、うまく出来るようになれば自信につながる。そういうことを積み重ねていくと、人生を生きるうえでも応用が利く人間に成長します。そのためにも、私は一人ひとりの普段の行動、習性をよく観て、その人の個性、性格を知るようにしています。そして、その人に適した言葉がけをし、その言葉によって、どんな反応をするのかを観るように努めています。

工夫② 拳士、保護者を信じて仕事を任せてみる

次に運営面についてです。道院長は運営の責任者ではありますが、道院運営というのは決して道院長一人だけで行うものではない、というのが私の考え方です。道院長一人で何もかもしようとするのではなく、拳士、保護者を信じて仕事を任せてみる。すると、それぞれが責任感をもち、よく動いてくれるようになります。

また、保護者の中にも、いろいろな才能を持っている人がおります。その人たちが行動力を発揮してくれるようになると、運営の力強いサポートとなり、幅が広がるのを実感できます。

金剛禅の「教え」を運営方針の中心として、私だけで道院を取り仕切るのではなく、皆で携わり、互いに信

頼関係を構築しながら、よりよい環境を作っていく。そんな運営を心がけています。



道院長

vol.38

元気^の素

埼玉毛呂山道院

道院長 川瀬 敦士(40歳)

自己確立を行うなら
道院長をやるのが一番

先代の道院長から交代の話があり、後継者として私を選んでくださいました。尊敬する道院長から後継者として指名されたことは大変名誉なことであり、心が奮い立つ思いでした。一方で精神的にも技術的にもまだまだ未熟である自分が諸先輩方を差し置き「先生」と呼ばれる資格があるのかなど、考え始めると不安材料には事欠きませんでした。



しかしながら開祖も「自己確立を行うなら道院長をやるのが手っ取り早い」と仰られておりまして、自らの修行になると考えました。そして何より先代の道院長、背中を押してくれる先輩や

仲間たちの期待に応えたいという思いから道院を引き継ぐ決心をしました。

道院があすへの活力となるように

修練では「楽しみながら技術を学ぶ」を主眼に指導しており、今までできなかったことが少しでもできるようになるという、少しずつの成長を褒めてあげたいと思います。最近では子供たちにV字腹筋やV字背筋のときに「読本」を1ページ読む(読む量は年齢に合わせたものにしてますが)など学科と易筋行の両得をねらった修練を行ったりしています。これは子供よりも大人のほうがきついかもしれません。

大人の修練に関しては先代の道院長から「仕事を終えて疲れているのに、道場に来るのだから修練を楽しんで、あすへの活力になるようにしなければいけない。きつだけでは続かないよ」と言われておりました。本当にそうだと思います。終わったあとに心地よい疲労感があるように、門信徒が少林寺拳法を好きになるように心掛けています。

私自身は、道院長になった喜びを日々感じています。子供たちが道場に来て挨拶するときや私の指導についてきて一生懸命修練しているとき、大人の拳士とともに技術の研鑽(けんくわん)を行っているとときなど、何気ない道場でのやり取りが大変励みになっております。これは一門信徒として道場に来ているときよりもずっと鮮明に感じています。

理由はよく分かりませんが、実は道院長である私がいちばん、道場に来て元気をもらっているのかもしれない。

拳士であるという拠り所

道場以外では私も一社会人であり、企業に勤めるサラリーマンです。ストレス社会といわれている現代でさまざまな壁に当たることも多々あります。今の職場は私が「少林寺拳法の道院長」という立場にあることに理解を示してください、大変感謝しておりますが、それでも難しいときがあります。サラリーマンとしての自分、道院長としての自分、プライベートでの自分をきちんと区切ることが必要であると考えています。その上で根幹となる自己は「少林寺拳法の拳士である」という拠り所を持つことだと考えています。それぞれの立場でも恥ずかしくない自己を持てるように頑張っていきたいと思っています。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



本山

開催報告(派遣講師)

● 本山公認教区講習会

〔6月25日〕群馬県教区(湯浅裕二)
〔7月15日〕宮城県教区(新井庸弘、土佐久)

〔7月23日〕京都府教区(春日部裕樹、川上鐘成)

〔8月20日〕栃木県教区(江原謙治)

〔8月26日〕埼玉県教区(柏井伸二)

〔8月27日〕茨城県教区(海鋒雅之)、山梨県教区(春日部裕樹)、福島県教区(岡部好孝)

● 教区研修会開催報告

〔7月9日〕長野県教区

〔7月16日〕岡山県教区

〔8月6日〕和歌山県教区

〔8月20日〕神奈川県教区、長崎県教区

● 小教区研修会

〔6月25日〕山梨小教区、静岡富士小教区、静岡中部小教区

〔6月28日〕東京第四小教区

〔7月9日〕愛知西三河第二小教区、京都東小教区、兵庫川辺小教区、兵庫丹有小教区、兵庫宝塚小教区

〔7月15日〕栃木南部小教区

〔7月16日〕三重三泗小教区

〔7月21日〕神奈川県東第二小教区

〔7月28日〕宮城塩竈小教区

〔8月6日〕茨城中央小教区、大

阪高槻・茨木小教区、兵庫県東播第一小教区

〔8月13日〕茨城県南西小教区

〔8月16日〕静岡西部第一小教区、静岡西部第二小教区、静岡西部第三小教区、静岡西部第四小教区

〔8月20日〕青森南部小教区

〔8月27日〕和歌山海南小教区、中紀小教区

群馬多々良道院

少林寺拳法体験教室

6月2日から24日にかけて、毎週土曜日、4回にわたって「少林寺拳法体験教室」を開催しました。

見よう見まねでしたが、保護者4名、子供8名の参加者からは「難しいけど面白く、楽しく練習させてもらいました」との感想をいただきました。

道院の専有道場にて開催しましたので、技術だけでなく、本当の強さや拳士としての心得、



少林寺拳法の特徴など、独自の雰囲気伝える話が十分にできたと思います。後日、体験教室の参加者から、子供2名

が入門希望として修練に参加しています。(原 新一)

奈良信貴道院

演武発表会

毎年開催させていただいている奈良信貴道院演武発表会は、来賓はじめ地域の方々、拳士・家族のみなさまにご理解とご協力を得る機会であり、ひとつのことをみんなで協力し、心をひとつにして創り上げていく大切な道院の行事です。

今年も6月11日、拳士全員の力を合わせて実施することができました。一年たつごとに拳士たちは成長し、毎年の通り中学生拳士は司会を、高学年の少年拳士は要所の基本演武指揮などを務めてくれました。

演武もまた成果を見ていただく重要な機会です。技術の向上も拳士自身また家族の方々にも感じてもらえたのではないのでしょうか。

そのほか進行中の態度や姿勢、礼儀も少林寺拳法を通じて学び養ったことを表現してくれ



たと思っています。

1978年より毎年開催しているこの演武発表会、その数だけ多くの方々のご理解とご協力・ご支援をいただき、そして道院長や諸先輩たちの努力があり今につながっています。そのことにあらためて感謝いたします。(佐藤昌宏)

本山

金剛禅講習会(指導者育成)

6月は2回にわたり、金剛禅講習会(指導者育成)を開催しました。3・4日は本山にて、17・18日は山形県・ヒルズサンピア山形にて開催し、大勢の道院長・拳士が参加されました。参加くださった皆さま、ありがとうございます。

創始70周年記念の冠を掲げて行われた本講習会では、宗



由貴師家・大澤隆代表といった充実の講師陣に加え、山形では特別講師として川島一浩一般財団法人少林寺拳法

連盟会長にもご指導いただきました。

久しぶりの地方開催となった山形では、東北全域より170名超が参加され、問題意識・連帯意識が非常に高く、教団らしく力強い「架け橋」がかかっている姿が印象的でした。

9月9・10日は大阪市立東淀川体育館にて金剛禅講習会を開催いたします。(宗務部)

本山

僧階補任講習(大導師・中導師)

去る7月2日、本山にて僧階補任講習を開催しました。大導師・中導師あわせて22名が、早朝より布教師としての知識・在り方を学ばれました。

早朝7時、凛とした空気の中で行う鎮魂行に始まり、代表法話・各種講義・易筋行修練を経て、無事に全員が昇任を果たされました。



新たに僧階を高めた皆さまが各地で活躍され、金剛禅の布教が一層推進されることを期待しています。(宗務部)

僧階昇任者

少法師

■2017年5月13日付

武田 隆(江南西道院)

大導師

■2017年7月2日付

浜津 力(郡山東道院)

後藤 久雄(榛南道院)

日向 正(岳南道院)

林 比登志(三重多度道院)

西尾 元秀(姫路花北道院)

吉野 雅文(播磨南道院)

庄坪 俊明(兵庫市川道院)

川島 勇治(広島竹屋道院)

栗林 伴式(諫早東道院)

西田 薫(鹿児島種子島宝来道院)

田中 良治(沖縄やんばる道院)

中導師

■2017年4月1日付

高橋 竜一(尾張守山道院)

■2017年5月1日付

檜物 量(田無南道院)

三井 栄三(大阪美原道院)

中井 強(大阪中津道院)

山田 哲朗(長崎浦上道院)

■2017年6月1日付

神田 勇二(船橋宮本道院)

山崎 晴康(東京吉祥寺道院)

■2017年7月2日付

向井 基樹(埼玉行田道院)

澤井 健(横浜戸塚道院)

岡部 和也(神奈川大和道院)

藤田 英彦(東戸塚道院)

篠原 哲(東戸塚道院)

鈴木 準(逗子道院)

石野 学(逗子道院)

南雲 正明(逗子道院)

中尾 明(逗子道院)

廣澤 一徳(静岡竜爪道院)

西村 智裕(姫路花北道院)

お布施

布施

▷那珂川道院 久保田 利幸

50,000円

▷札幌あいの里道院 村上 満

10,000円

▷仙台中央道院 佐藤 芳邦

10,000円

▷豊田末野原道院 服部 俊美

10,000円

公認講習会

▷九州地方教区

50,000円

▷群馬県教区

30,000円

訃報

まえかわ しょうはん

前川 昌範 元池袋道院・元高島平道院 元道院長、211期生、大導師正範士八段、2017年6月8日逝去、満86歳

叙勲・瑞宝双光章

2017(平成29)年5月10日、皇居豊明殿において二名の先生が顕彰されました。



藤本義政(ふじもとよしまさ)
姫路白鷺道院元道院長
2009年春に藍綬褒章を受章した際は、保護司として長年の業務に尽力したことに対する顕彰であり、叙勲の対象にはなにくいとされている中、顕著な功績と認められたものが今回の瑞宝双光章の受章という名誉であります。(報告者：伊澤啓介姫路白鷺道院道院長)



濱田宏行(はまだひろゆき)
宇和島道院道院長
「今回の春の叙勲は、保護司を26年間勤めたことと、更生保護活動を続けた結果だと思っています。開祖の教えを地道に実践できるのも、黙って送り出してくれた妻のおかげと感謝しかありません。これからも勲章に恥じないよう努力邁進したいと思います」

少林寺拳法創始70周年記念事業

ブルースカイキャンパスin多度津

11/3金・祝・4土・5日

会場：金剛禅総本山少林寺／多度津中学校
ほか多度津町内

ライブや全国のグルメ、ワークショップ、シンポジウムなど、少林寺拳法グループの組織力を生かし、全国各地の魅力・活力を集約&発信します！

★印のイベントについては、事前申込が必要です。QRコードを読み取り日本旅行ウェブサイトよりお申込みください。



	第一会場 (本山)			第二会場 (多度津中学校)	ミニ会場 (多度津町内)		
11月3日(金)	時 間	本堂・健成道場		講堂			
	11:30	★ 本山開放・特別練習会		★ 本山開放・特別練習会			
	15:40			特別講演			
	16:30			★ 本山開放・特別練習会			
	17:00						
11月4日(土)	時 間	場 内	慧王門・大食堂	講堂・本堂	体育館・運動場	金剛殿	香露軒
	09:00	★ チャリティライブ①	グルメ屋台				
	10:00						
	12:30			シンポジウム(講堂)			
	14:00	★ チャリティライブ②		★ 澤山・本部修練	震災体験 ブース	郷土 産物づくり	美味しいお 茶と全国の 和菓子
	15:00						
	16:00						
	17:00	から	フリーライブ	夜の舞台村			
21:00							
11月5日(日)	時 間	場 内	慧王門・大食堂	講堂・本堂	体育館・運動場	金剛殿	香露軒
	09:00	N'フォーメーション ステージ	グルメ屋台				
	10:00			★ 澤山・本部修練	震災体験 ブース	郷土 産物づくり	美味しいお 茶と全国の 和菓子
	11:00						
	12:00						
	13:00						

編集後記▶今号の特集は、道院で絵本の読み聞かせに取り組んでいる皆さんのお話です。読んで聞かせるといっても、決して一方的でも傲慢でもありません。少林寺拳法の指導と同じで、皆さん自分のこともよく振り返っておられます。▶少林寺拳法の指導では、相手のナマの反応を手がかりにして、次のもっていき方を工夫したりします。読み聞かせも、はじめはやや一方的でも、きつと慣れるほどに子供たちの反応によく気づくようになるのでしょう。そんなやりとりを、ときには考えさせられながらも、皆さん楽しんでおられるようです。▶子供たちに向き合うことの大切さも大変さもよく知っている指導者の皆さんだからこそ、気づくことも生かすことも多いことでしょう。絵本の読み聞かせと少林寺拳法とのマッチングがどんな相乗効果をつくり出すのか。期待が高まります。(さ)

表紙▶三野 智大 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアーツ卒業。2016年3月より「ダーマ」をテーマに『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
代表法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅

検索

あ・うん vol. 54
金剛禅総本山少林寺広報誌 2017 長月・神無月

2017年9月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：大澤 隆

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：坂下 充

印刷・製本：株式会社ムレコミュニケーションズ

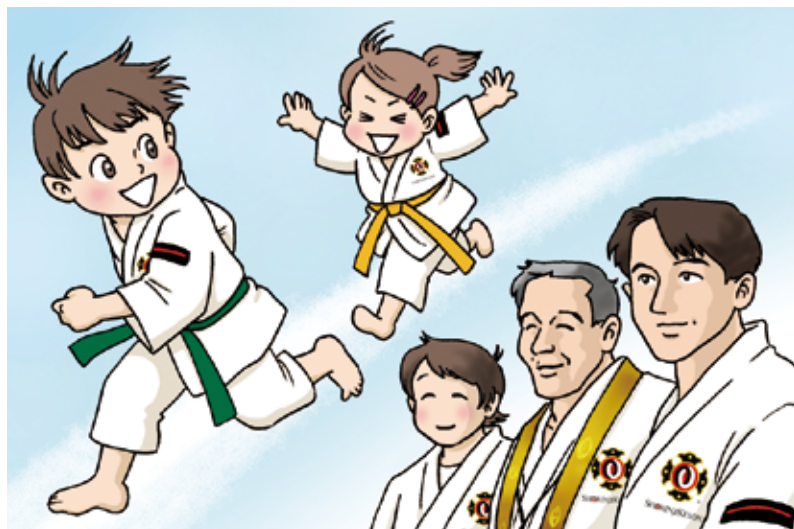
広報誌「あ・うん」追加発送について ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

現在、広報誌「あ・うん」は、道院の在籍門信徒数に応じて10～20部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎月ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山宗務部にお申し出ください(追加1部につき50円・送料別途要)。

TEL.0877-33-1010

e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト／大原由軌子

福島桑折道院 仲野 剛

心に根ざす金剛禅

少林寺拳法に出会って11年。思い起こせば、息子が小学3年生のときに「友達と一緒に少林寺拳法をやりたい」と言い出したのがすべての始まりでした。当時私は、少林寺拳法は武道の一種という程度の知識しかなく、「男児たる者、武道を経験するのいいことだ」くらいの考えでした。息子の送迎から始まり、保護者として道院の行事にも関わるようになりました。あるとき、毎年恒例の福島桑折道院キャンプの席で、齋野光樹道院長から入門を勧められ、酔った勢いで快諾したら、翌日にはすでに道衣が用意されていたという不思議な出来事を今でも忘れられません。娘も道場の片隅で遊んでいるうちに、「私も拳法やるっ!」と言い出し、いつしか親子3人で修行するようになりました。現在は、息子も娘も休眠しておりますが、おかげさまで息子は今年の春、医療大学を卒業し、病院のリハビリテーションの作業療法士として就職することができました。作業療法士とは、食事、入浴、着替えなど、患者さんの日常生活に関わるすべての活動を介助し、患者さんが日常生活の訓練を通して社会とのつながりをつくっていくことを支援する仕事です。

超高齢社会により社会とのつながりを維持できなくなる人は、今後ますます増えていくでしょう。そんな人々に寄り添い、励まし、社会復帰の手助けをする仕事に必要なものは、作業療法士の技術を「力」とするなら、患者さんへの支援は「愛」であり、まさに「力愛不二」の実践なのかもしれません。また、その実践の中には、金剛禅の目指す「自己確立」と「自他共栄」の教えが重なっていると思います。息子が17歳でその道を志し、途中で投げ出さずにここまでこれたのは、少林寺拳法を経験して、彼の考え方の根底に金剛禅の教えがあったからだと思います。以前、進路について私は息子に「自分の仕事によって人からありがとうと感謝されるような仕事に就きなさい」とだけ伝えたいことがあります。結果的に間違っただけだと思えます。

そして、道院に一人残された私は、今でも齋野道院長先生をはじめ、よき先生方のもと楽しく修行しています。当時幼かった子供たちの入門により少林寺拳法とのつながりを持たせてくれた「架け橋」を大切に、これからも福島桑折道院で金剛禅の修行を楽しんでいきたいと思っています。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

Kongo Ken, Ushiro Ude Gatame



宗門の行としての少林寺拳法

こんごうけん うしろうでがため
金剛拳 後腕固

たとえば、居捕にて送小手をかけた後、伏身の相手の上体に我の体重をあずけるようにして押さえ、腕を抱え込んで手首を極める。右脇で締め込むことで肘を伸ばさせ、左手は裏固のように手首を固め、さらに右手でかぶせ、大拳頭を極めていく。送小手からの滞りない連携が何より重要である。

撮影／加々見一 文／永安正樹 演武者／守者：富田雅志 大拳士五段 攻者：倉本亘康 准範士六段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法